



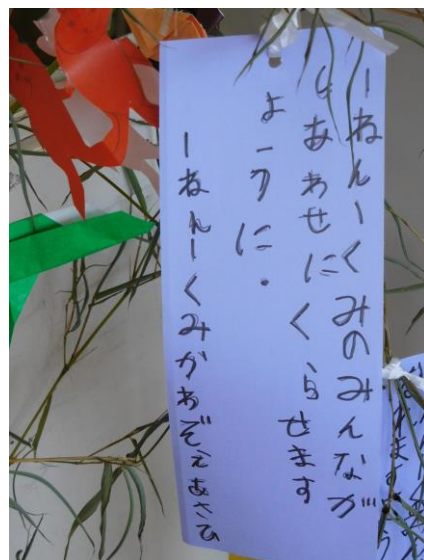
七夕の祈りに

1学期の話になりますが、1年生が七夕の飾り竹をつくりました。子どもの字で短冊に書かれた願いごとは、どれもほほえましく、それを書いた子の姿まで想像してしまいます。

その中のひとつに「1年1組のみんながしあわせにくらせますように」と書かれた短冊を見つけました。

多くの短冊には、個人の願いごとや、今ほしいもの等がたくさん書かれていました。私も、もし、小学生だったならそのように書いたに違いありません。

「学級のみんなが幸せに・・・」と書かれた短冊を見て、こんなものの見方ができる1年生がいることに感心させられるのと同時に、こんな感性をいつまでも大切にする教育を充実させていきたいと思いました。



中牟田小学校おやじの会

8月23日(日)、おやじの会によるプール監視がおこなわれました。おやじの会は、ややもすると、子育てを母親にまかせっきりになってしまいがちなお父さんたちが、子どもたちの教育に関心を持ち、いくつかのイベントを開催したり、父親同士の交流を深めたりすることを目的としています。

「学校に協力する気持ちはあるのだが、どのようにして協力したらよいかかわからない」と言われるお父さん方、是非おやじの会への参加をお願いします。



夏休みを通して、鶏の飼育

鶏の飼育当番6年生の梶原君が、夏休み中、鶏のお世話をしに学校へ登校してくれました。

生き物を飼うということはとても難しく、お世話をするのをさぼったり、忘れていたりすると生き物の“いのち”を奪ってしまうことになってしまいます。

「与えられた仕事を責任を持って最後までやりとげる」という事は、口で言うのは簡単ですが、なかなか実行できるものではありません。夏休みにいろいろな学校の仕事をするために登校してくれた人たちに、お礼を言います。



■ チャレンジ学級で大切に育てていたスイカが・・・

1学期に苗を植え、夏休み中、草取りや水やりをして、大切に育ててきたチャレンジ学級のスイカが、8月17日の朝、なくなっていることがわかりました。

一日、一日大きくなっていくのを、みんなで喜んでいただけに残念でしかたありません。持っていった人はどんな気持ちで持っていったのでしょうか。

夏、暑さの中で、たまたまスイカが目に入ったのか、スイカが好きな人だったのか、それはわかりませんが、先に書いているように、多くの人たちが大切に育ててきたスイカです。自分さえ良ければ良いという考えだけで持っていったのであれば許せません。

自分が欲しい物を不正な方法で手に入れるということは、多くの人のねがいやところを踏みにじっていることに気づいてほしいです。また、自分自身を傷つける行為でもあります。



■ 1年生平山君の作文が、西日本新聞「ジュニアこだま」に掲載されました。

(8月9日、西日本新聞)

たからものは犬のぬいぐるみ

1年平山智也

みなさんには、たからものがありますか？
ぼくにはあります。
ぼくのたからものは、いぬのぬいぐるみです。
それは、ぼくが2さいのときに、
おかあさんからかってもらいました。
ぬいぐるみやさんから、かってもらいました。

いつもねるとき、いっしょにベッドで
ねています。
これは、だいすきなおもいでの
ぬいぐるみです。
おおきさはちゅうぐらいです。
いつもそばにいるからあんしんです。

■ 手話によるスピーチコンテスト 全国大会へ

8月29日、東京でおこなわれる第32回「全国高校生、手話によるスピーチコンテスト」(全日本ろうあ連盟、朝日新聞社主催)に、三井高校3年の領家希歩さん(中牟田小学校出身)が出場する。スピーチの題は「受け継いだ心」。手話活動を通じて障害への偏見に気づかされた体験を手話に託す。

小学校の時、先生から習った手話ソングから手話が好きになり、中学生から地域でおこなわれている手話講座へ参加。高校ではボランティア部に入り、1年上の先輩と出会う。

車椅子で手話に打ち込む先輩の姿に「自分のことだけで大変そうなのに」と感じた。「いつも周りに助けられているから、誰かの役に立ちたい」と語っていた先輩は卒業前に亡くなった。

「障害の有無は関係ない」と教えてくれた先輩のことを伝えねば・・・。そんなおもいをスピーチ原稿に綴った。コンテストには全国から10人が選出され、九州からは唯一の出場だ。

(以上、8月27日付、朝日新聞 Digital より引用)



